



Sun A. Kaken

第117期（2026年3月期）
決算説明会

株式会社 サンエー化研

2026年6月9日

目次

1. 第117期（2026年3月期）決算概要

- 連結貸借対照表（資産の部、負債・純資産の部）
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況（軽包装材料、産業資材、機能性材料）

3. 第118期（2027年3月期）業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、重点施策（軽包装材料、産業資材、機能性材料）
- 設備投資及び研究開発費

4. 参考情報

- トピックス

目次

1. 第117期(2026年3月期)決算概要

- 連結貸借対照表
(資産の部、負債・純資産の部)
- 連結損益計算書
- 営業利益の要因分解

第117期決算概要：連結貸借対照表（資産の部）

（単位：百万円）

科 目	2024年3月期末 （第115期末）	2025年3月期末 （第116期末）	2026年3月期末 （第117期末）	対前期 増減額	対前期 増減率
流動資産	22,950	22,559	21,732	▲ 826	▲ 3.7%
現金預金	7,317	6,380	6,005	▲ 375	▲ 5.9%
売上債権	10,579	10,980	10,575	▲ 404	▲ 3.7%
棚卸資産	4,840	5,019	5,040	20	0.4%
その他	212	178	110	▲ 67	▲ 38.0%
固定資産	14,489	15,297	17,105	1,808	11.8%
有形固定資産	6,723	7,062	6,783	▲ 279	▲ 4.0%
無形固定資産	87	838	691	▲ 146	▲ 17.5%
投資その他の資産	7,678	7,395	9,629	2,234	30.2%
資産合計	37,440	37,856	38,837	981	2.6%

第117期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第116期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

第117期決算概要：連結貸借対照表（負債・純資産の部）

(単位：百万円)

科 目	2024年3月期末 (第115期末)	2025年3月期末 (第116期末)	2026年3月期末 (第117期末)	対前期 増減額	対前期 増減率
流動負債	12,696	13,316	11,932	▲1,383	▲10.4%
仕入債務	6,919	6,739	5,829	▲910	▲13.5%
短期借入金	3,690	4,370	3,810	▲560	▲12.8%
その他	2,086	2,206	2,293	86	3.9%
固定負債	3,142	3,519	3,659	140	4.0%
長期借入金	412	847	598	▲249	▲29.4%
その他	2,729	2,671	3,060	389	14.6%
負債合計	15,838	16,835	15,592	▲1,243	▲7.4%
純資産	21,602	21,020	23,245	2,224	10.6%
負債及び純資産合計	37,440	37,856	38,837	981	2.6%

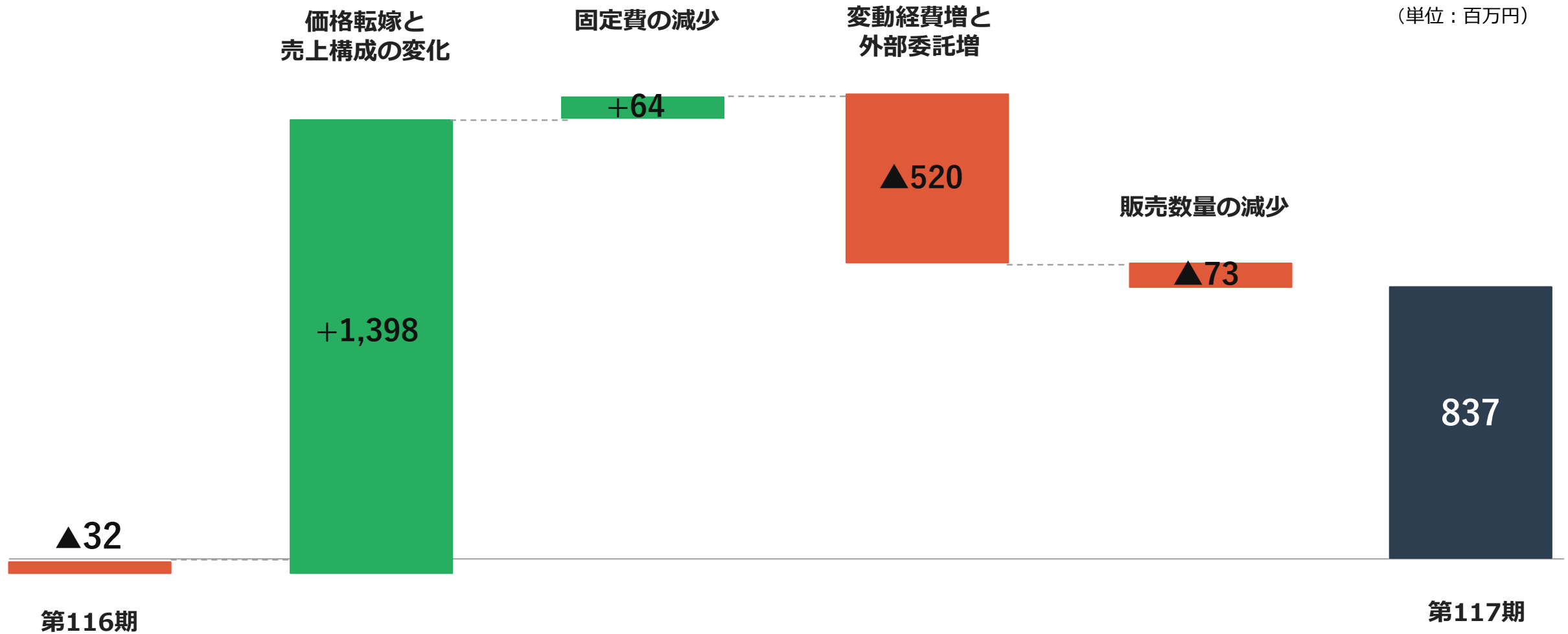
第117期において、企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、第116期に係る各数値については、暫定的な会計処理の確定の内容を反映させております。

(単位：百万円)

科目	2024年3月期 (第115期)	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	27,521	29,430	30,358	927	3.2%
売上原価	24,656	26,076	26,168	92	0.4%
売上総利益	2,864	3,353	4,189	835	24.9%
販売費及び一般管理費	3,059	3,386	3,351	▲34	▲1.0%
営業利益	▲195	▲32	837	870	—
営業外収益	274	229	268	38	16.8%
営業外費用	43	106	83	▲22	▲21.1%
経常利益	35	90	1,021	931	1030.2%
特別利益	967	377	18	▲358	▲95.0%
特別損失	3	50	—	▲50	▲100.0%
税引前当期純利益	999	417	1,040	623	149.4%
税金費用他	651	177	83	▲94	▲53.2%
親会社株主に帰属する当期純利益	348	239	957	717	299.4%

第117期決算概要： 営業利益の要因分解

(単位：百万円)



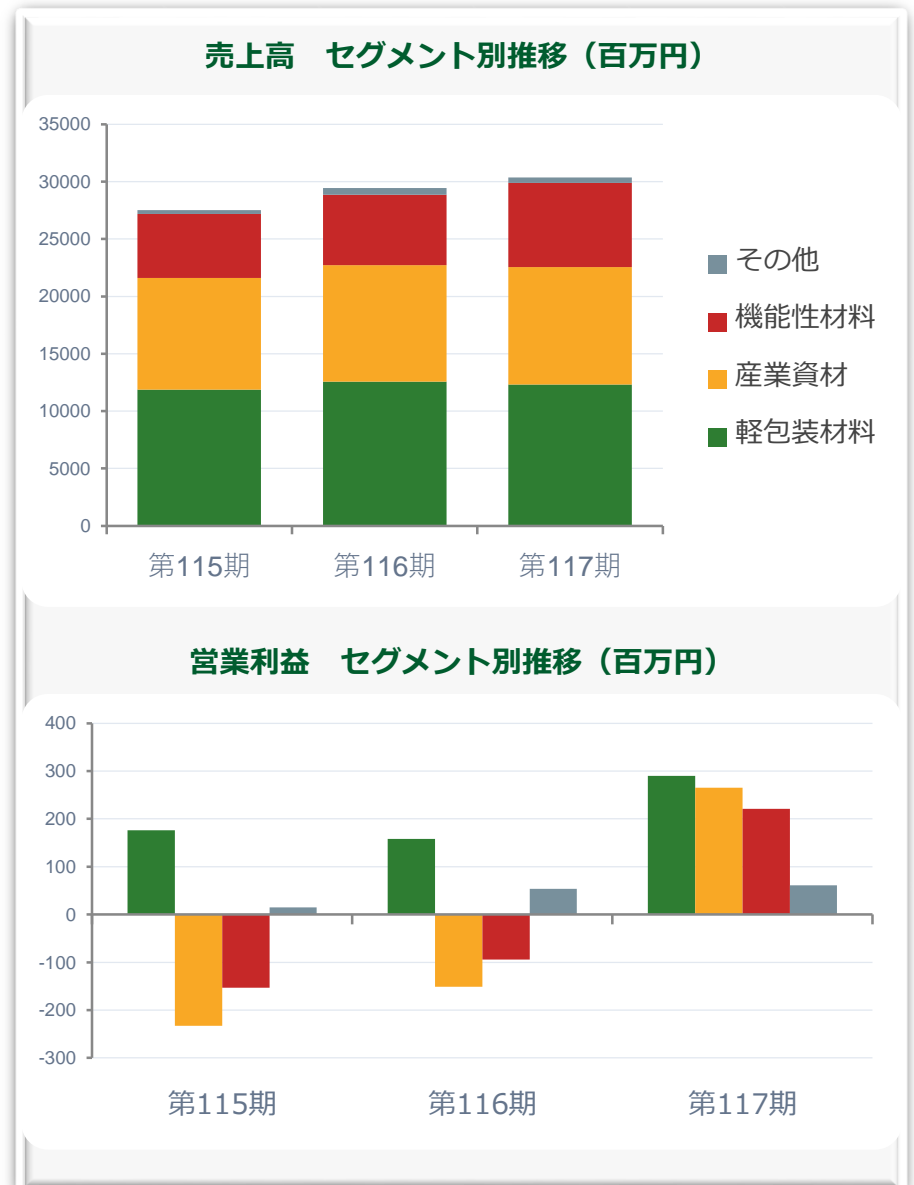
目次

2. 各セグメントの概況

- セグメント別業績内訳
- 事業の内容及び概況
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)

各セグメントの概況：セグメント別業績内訳

科目	第115期	第116期	第117期	増減額	増減率
売上高 (単位：百万円)					
全体	27,521	29,430	30,358	927	3.2%
軽包装材料	11,880	12,559	12,322	▲237	▲1.9%
産業資材	9,738	10,169	10,217	47	0.5%
機能性材料	5,557	6,141	7,345	1,203	19.6%
その他	344	558	473	▲85	▲15.3%
営業利益					
全体	▲195	▲32	837	870	—
軽包装材料	176	158	289	131	82.4%
産業資材	▲233	▲151	265	416	—
機能性材料	▲153	▲94	220	315	—
その他	15	54	61	7	13.3%



軽包装材料セグメント

食品、医薬品、医療器具、精密機器等の包材の製造・販売

主要顧客

- 食品製造業
- 医薬品・医療器具製造業
- 自治体（災害用）
- その他日用品等製造業

生産拠点・グループ会社

- 静岡工場
- 奈良工場
- 東邦樹脂工業（子会社）

食品用包材

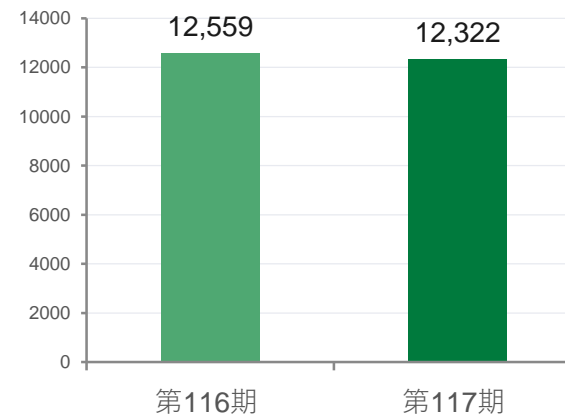
医薬品・医療用包材

日用品等の包材



売上高（百万円）

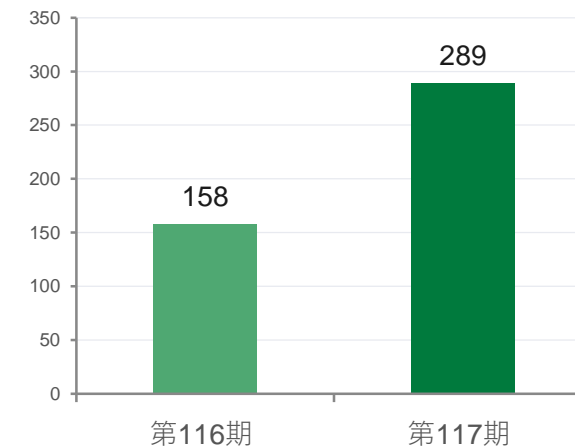
12,322 百万円



前期比 ▲1.9%

営業利益（百万円）

289 百万円



前期比 +82.4%

概況

軽包装材料セグメントは、売上高12,322百万円（前期比▲1.9%）、

営業利益289百万円（前期比+82.4%）となりました。

売上高は不採算製品の受注調整や消費者の買い控えの影響により微減となりましたが、営業利益は大幅増となりました。これは原材料価格やエネルギーコストの高止まりに対し、不採算製品の価格転嫁（価格適正化）や採算性を重視した製品構成への転換を進めたことが奏功した結果です。

レンジ袋や易開封性フィルムなど、食品の調理・開封を便利にする包材を展開

市場環境

- 食品メーカーによる値上げの継続と、それに伴う消費者の買い控えが発生
- 汎用品は競争が激しい
- 共働き・単身世帯・高齢化による短二エースの増加

概況

- 電子レンジ対応食品用包材「レンジDo!」は、物価高騰の影響で消費者の買い控えが発生し受注減少
- その他食品向け包材の受注は堅調に推移
- 不採算案件の見直しと価格適正化の推進により、収益を改善

収益性・成長性

- 易開封フィルム「ポロソ」の引合い増
- 不採算案件の見直しと価格転嫁（価格適正化）を推進
- 紙・バイオマス包材など環境配慮型製品市場が徐々に拡大

年間売上高 **6,306** 百万円

前期比 ▲**62** 百万円 (▲1.0%)



徹底した品質管理で顧客の信頼は厚い

市場環境

- 医薬品・医療機器向け包材需要は高齢化を背景に安定成長
- 品質要求レベルが高く、新規参入が困難な市場

概況

- 「テクニフィルム」をはじめ医薬品向け全般で受注が堅調に推移
- その他の医薬品向け包材においても受注が堅調に推移

収益性・成長性

- 「テクニフィルム」の新規拡販と品質優位性を武器に新規顧客を開拓
- 当社の加工技術を活かした高付加価値製品の提供により、安定的な利益を達成
- 景気変動の影響を受けにくい市場であり、品質の維持・向上により安定成長見込む

年間売上高 **2,234** 百万円

前期比 **+91** 百万円 (+4.3%)



日用品等の包材

多様な製品展開で受注変動リスクに対応、独自製品の開発・拡販に注力

市場環境

- 日用品市場は消費者の節約志向が続き、汎用品の需要が軟調に推移
- 環境意識の高まりにより、プラスチック使用量削減を目的とした「プラボトルからパウチへ」の形態変更（減容化）ニーズ増

概況

- 低採算製品について収益改善を優先した受注調整を実施。数量は減少したが収益性は改善方向
- 耐内容物包材『プラピカ』の受注が好調に推移

収益性・成長性

- 低採算品の受注調整を継続し、収益性の改善を優先
- 環境対応・機能性包材へのシフトで付加価値を向上
- 顧客の形態変更ニーズへの迅速な対応で、取引関係を維持・強化

年間売上高 **3,781** 百万円

前期比 ▲**266** 百万円 (▲6.6%)



産業資材セグメント

粘着テープ基材及び各種剥離紙の製造・販売

主要顧客

- テープ・ラベル製造業
- 電子部品製造業
- その他製造業

生産拠点・グループ会社

- 掛川工場WEST
- 袋井工場
- 東邦樹脂工業（子会社）
- シノムラ化学工業（子会社）

紙・布へのラミネート製品

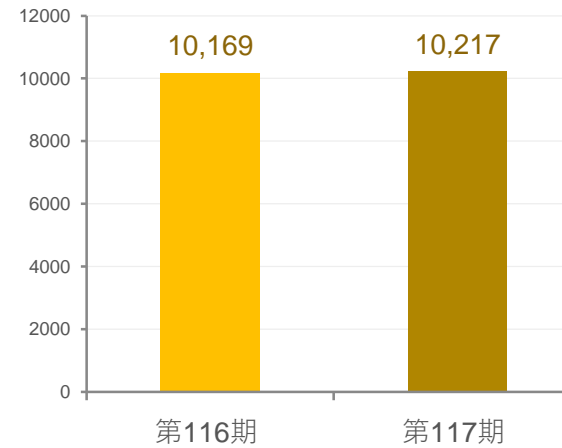


剥離紙



売上高（百万円）

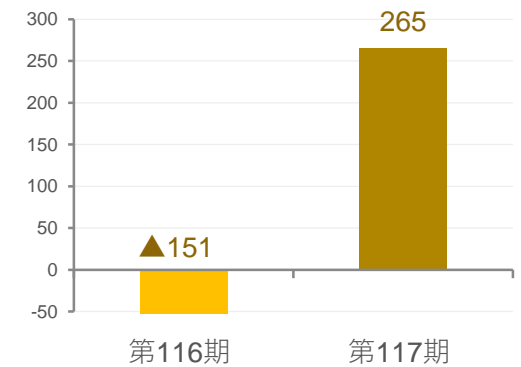
10,217 百万円



前期比 +0.5%

営業利益（百万円）

265 百万円



前期比 +416百万円

概況

産業資材セグメントは、売上高10,217百万円（前期比+0.5%）

営業利益265百万円（前期は151百万円の営業損失）

第107期以来の黒字転換を達成いたしました。

売上高は、海外品の流入等によりラミネート製品が減少した一方、剥離紙においてスマートフォン向けFPC用工程紙や自動車関連用途の受注が堅調に推移し、微増となりました。

利益面では、原材料価格等の高騰に対し不採算案件の是正や製品価格の適正化（価格転嫁）を粘り強く進めたことが大きく寄与しました。加えて生産体制の再構築などにより、収益構造が大幅に改善いたしました。

紙・布へのラミネート製品

主に粘着テープ用基材をテープメーカーに販売

市場環境

- 一部顧客のテープ事業縮小により、ラミネート基材需要が減少
- アジア系海外品の流入により汎用グレードの価格競争が激化
- 環境対応でラミレスタイプが増加
テープそのものの使用量も減少

概況

- テープ事業縮小・海外品流入・通販会社のシステム障害の影響が重なり受注が減少
- 経済全般で荷動きの停滞が見られた

収益性・成長性

- 不採算銘柄の絞り込みにより、利益率改善を見込む
- 設備の統廃合を推進し、低コスト構造への転換を継続
- 子会社である、シノムラ化学工業との連携により、グループ全体の生産効率向上と競争優位性を確保

年間売上高 **4,006** 百万円

前期比 ▲ **153** 百万円 (▲3.7%)



テープメーカーの他、電子・化学・自動車関連等、ユーザーは多岐にわたる

市場環境

- 円安水準を背景に、剥離紙を使用する粘着テープの海外向け輸出需要
- 物価高の影響により、個人消費の戻りが鈍い

概況

- スマートフォン向けFPC用工程紙の受注が増加
- 白物家電や自動車関連分野など、多岐にわたるユーザー層において、受注が安定的に推移
- 「適正価格への改定」を粘り強く進め、収益構造の改善に寄与

収益性・成長性

- 採算性を重視した更なる価格適正化（価格転嫁）を継続し、収益性向上を見込む
- 設備の統廃合と、生産体制の最適化を推進し、低コスト構造への転換を加速
- 剥離紙のリサイクル活動など、業界の取り組みに参画し、環境配慮型製品のニーズを創出

年間売上高

6,210 百万円

前期比

+200 百万円 (+3.3%)



機能性材料セグメント

機能性プラスチックフィルム（各種表面保護フィルム等）の製造・販売

主要顧客

- FPD関連メーカー
- 電気製品メーカー
- 住設機器・建材メーカー
- その他製造業

生産拠点・グループ会社

- 掛川工場
- 袋井工場

オレフィン系粘着加工品

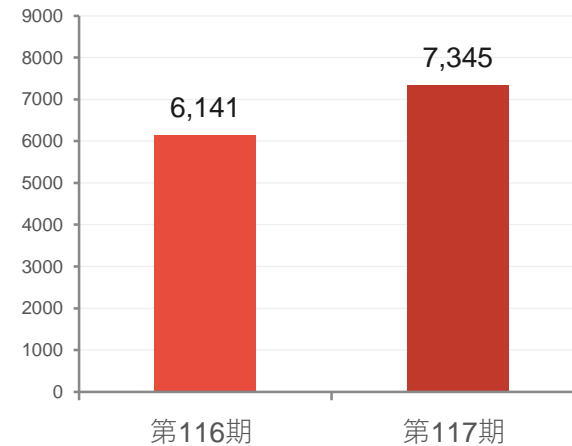


その他の粘着加工品



売上高（百万円）

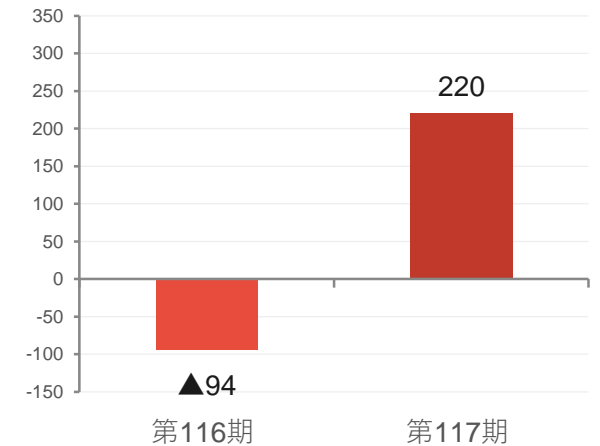
7,345百万円



前期比 +19.6%

営業利益（百万円）

220百万円



前期比 +315百万円

概況

機能性材料セグメントは、売上高7,345百万円（前期比 +19.6%）、営業利益220百万円（前期は94百万円の営業損失）となり、黒字転換を達成いたしました。

売上高は、スマートフォンやタブレット等の仕様変更、VRゴーグルの売れ行き不振の影響を受けて「その他の粘着加工品」の受注が減少いたしました。

一方で、前期に譲り受けた表面保護フィルム事業の収益が大きく貢献したことにより、セグメント全体では前期比で大幅な増収となりました。

営業利益については、原材料価格やエネルギーコストの高止まりに対し、粘り強く製品価格の適正化（価格転嫁）を推進したことが大きく寄与いたしました。

オレフィン系粘着加工品

業界で最初に生産を開始したPO系の表面保護フィルムで、用途は多岐にわたる

市場環境

- 電子部品向け保護フィルム市場は、競争が激化しつつも高機能品への需要は強い

概況

- 譲り受けた保護フィルム事業が本格稼働し、売上が大幅増加
- 車関連の需要は堅調
- PAC（共押しタイプ）は、粘着塗工タイプ代替の溶剤不使用環境配慮型として注目

収益性・成長性

- 譲受事業の保護フィルムは競合少ない
- 譲受事業を足掛かりとした、新市場が視野に
- 生産効率・歩留まり改善の徹底により、利益率向上と収益基盤の強化を目指す

年間売上高 **4,219** 百万円

前期比 **+1,429** 百万円 (+51.2%)



その他の粘着加工品

PETフィルムを基材とし、品質要求レベルの高い用途に使用される

市場環境

- PFASフリーなど、環境規制やサステナビリティに対応した製品ニーズの高まり
- スマートフォン・タブレット等の仕様変更や新技術を採用した製品の売れ行きが受注に影響

概況

- 新たに獲得したフォルダブルスマートフォン用途向けやモバイル用途向け保護フィルムの受注が好調
- VR等の新技術商品は、価格面等の課題もあり市場が伸びず

収益性・成長性

- 原材料価格やエネルギーコストの高止まりに対し、粘り強く製品価格の適正化を推進
- 他社に先駆けて開発したフォルダブルスマホ向け製品は収益性高く、成長が見込める
- 「捨てられない製品」の開発・シフトを強化

年間売上高 **3,125** 百万円

前期比 ▲**225** 百万円 (▲6.7%)



目次

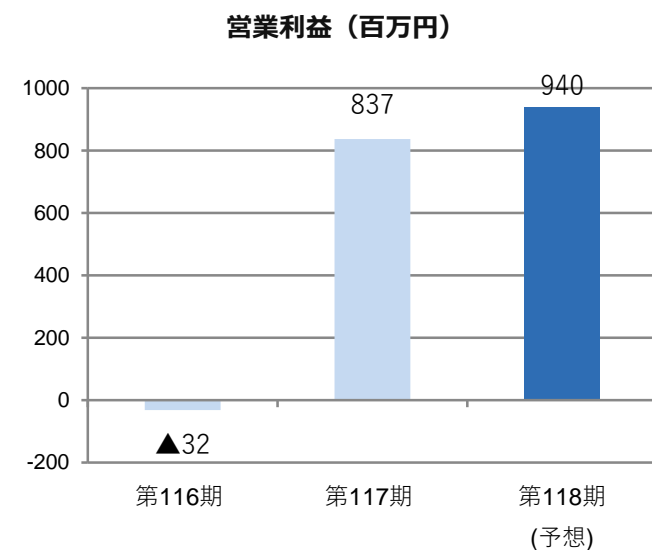
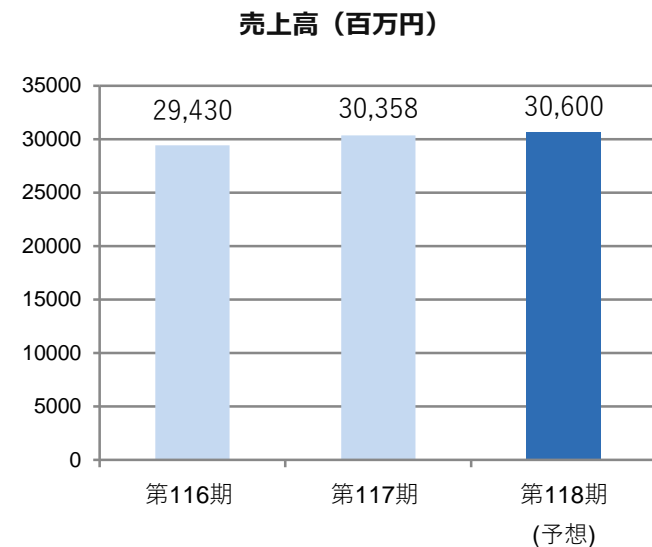
3. 第118期(2027年3月期)業績予想と今後の施策

- 翌期業績予想
- セグメント別業績予想、重点施策
(軽包装材料、産業資材、機能性材料)
- 設備投資及び研究開発費

第118期業績予想と今後の施策： 翌期業績予想

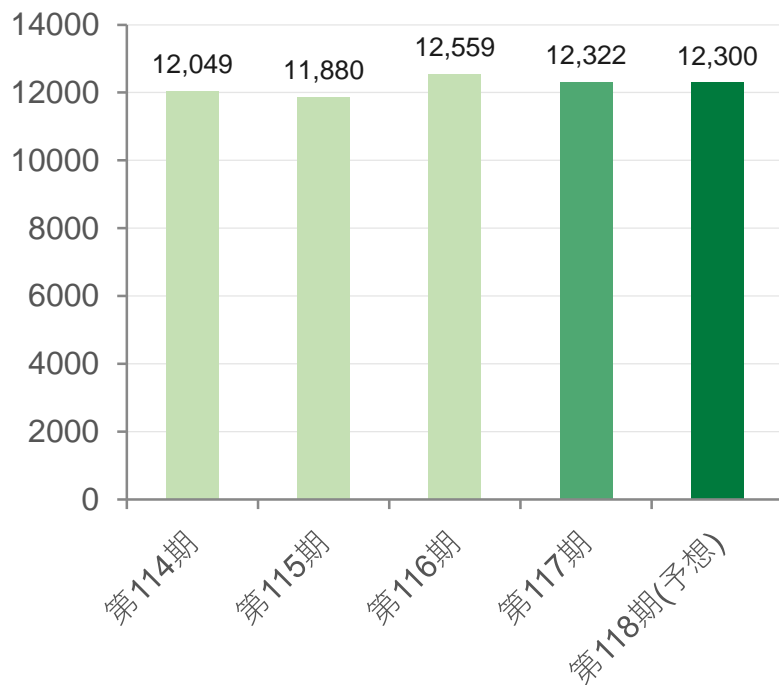
(単位：百万円)

科目／セグメント	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期)	2027年3月期 (第118期) (予想)	対前期 増減額	対前期 増減率
売上高	29,430	30,358	30,600	241	0.8%
軽包装材料	12,559	12,322	12,300	▲22	▲0.2%
産業資材	10,169	10,217	10,000	▲217	▲2.1%
機能性材料	6,141	7,345	7,600	254	3.5%
その他	558	473	700	226	47.9%
営業利益	▲32	837	940	102	12.3%
経常利益	90	1,021	1,100	78	7.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	239	957	650	▲307	▲32.1%

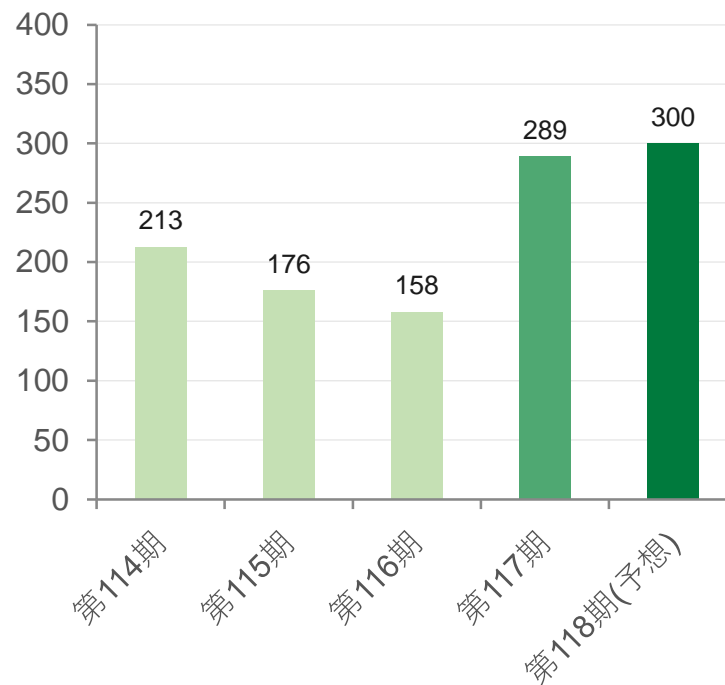


増収増益を計画 — 収益基盤の健全化を継続

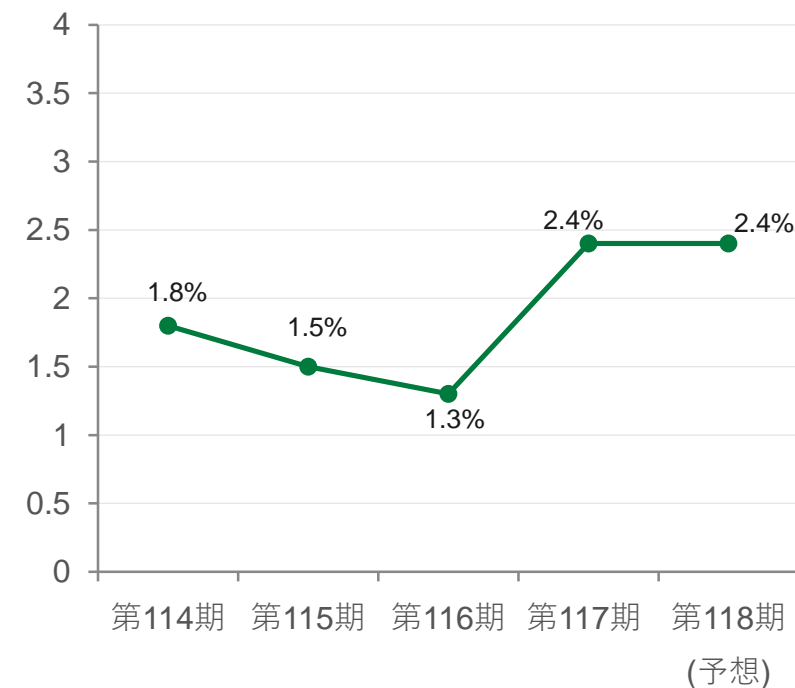
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



営業利益率の推移



第118期 売上高（予想）

12,300 百万円

（前期比：▲0.2%）

第118期 営業利益（予想）

300 百万円

（前期比+3.5%）

第118期 営業利益率（予想）

2.4%

（前期比±0pt）

Vision 人にやさしく、省人化で効率的なものづくりを実現し、持続可能な軽包装の未来を築く

1 収益基盤の健全化

不採算見直し・安定化

- 不採算銘柄の棚卸・評価を実施し収益ポートフォリオを最適化
- 安価な原材料の検討と歩留まり向上によるコスト削減
- 他社との協業による新テーマの実証・具現化

2 生産性改革

効率化・省人化・自動化・DX

- 製袋ラインの自動化（検査・集積装置）
- 歩留まり向上・ロス削減（集約・レイアウト変更）
- ドライラミネートからノンソルラミネート（無溶剤）への移行の可能性を検討

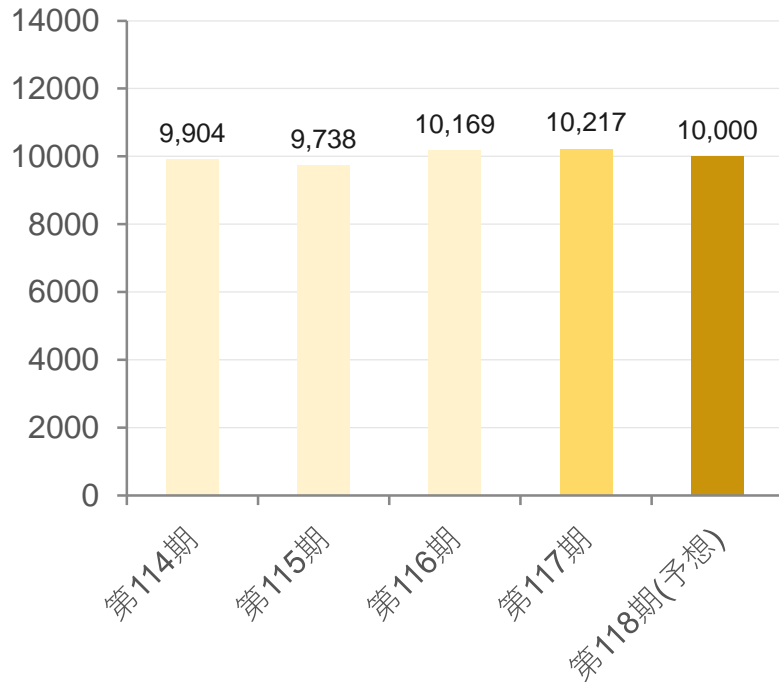
3 価値強化

品質・納期・対応力 No.1

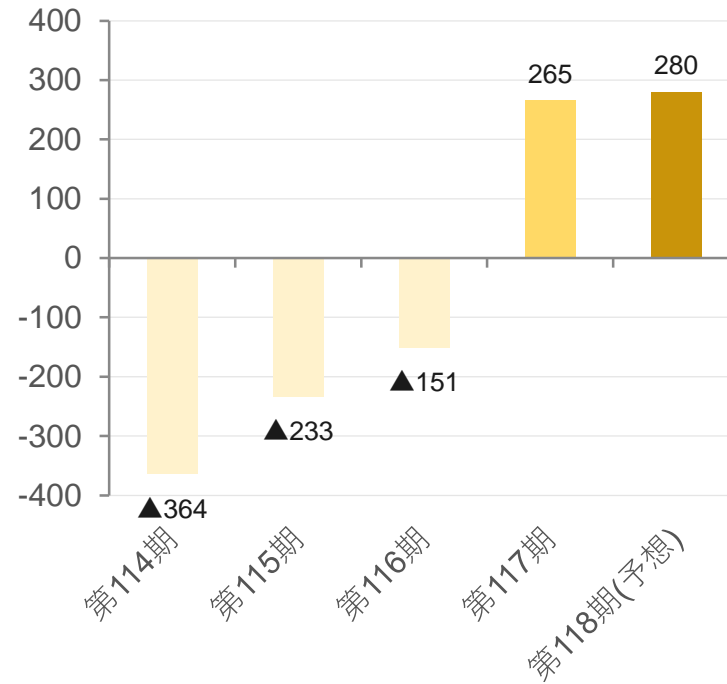
- 展示会への積極出展による情報収集・新規接点の創出
- 他社との協業による対応力・供給力の強化
- 技術者同行による顧客提案力強化
- 電子レンジ対応食品包材「レンジDo!」の新タイプ投入や、新分野開拓を実施
- プラスチックボトル代替パウチやモノマテリアル化の開発継続

増益を計画 — 剥離紙の成長継続と収益基盤の健全化により、黒字定着を目指す

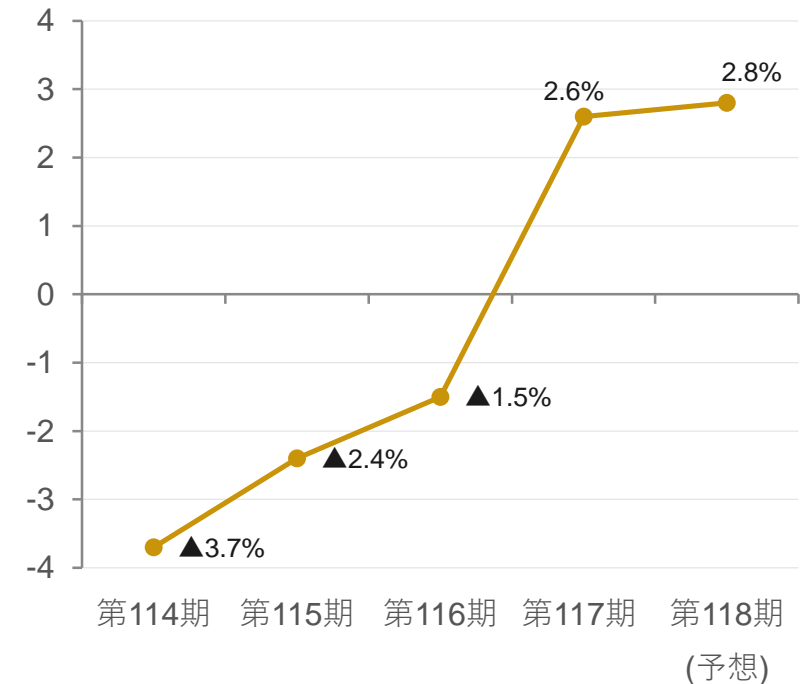
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



営業利益率の推移



第118期 売上高（予想）

10,000 百万円

（前期比：▲2.1%）

第118期 営業利益（予想）

280 百万円

（前期比+5.6%）

第118期 営業利益率（予想）

2.8%

（前期比 +0.2pt）

Vision お客様と価値を共創する “対応力業界No.1”を目指す

1 収益基盤の健全化

不採算品整理・収益改善

- 不採算銘柄の棚卸・評価を実施し収益ポートフォリオを最適化
- 外注費の削減・内製化可能領域の再設計
- 適正価格販売の徹底と小ロット高利益品への対応

2 生産性改革

省人化・自動化・工程効率化

- 複数拠点補完による稼働率最大化と安定生産
- 歩留まり向上・ロス削減（集約・レイアウト変更）
- ダブルスペックインによる生産の自由度向上
- 多能工化の推進・継続

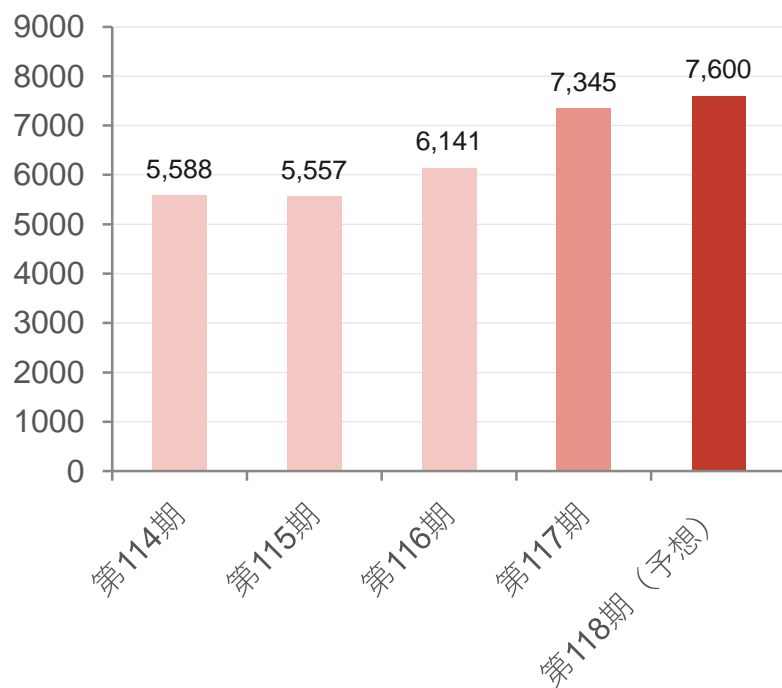
3 価値強化

品質・納期・対応力 No.1

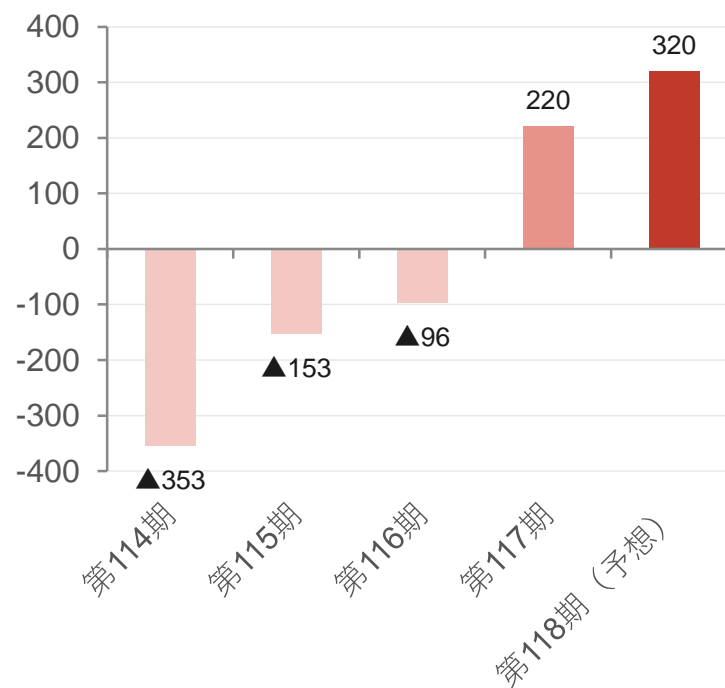
- ノンソル製品（溶剤を使用しない環境配慮型剥離紙）の拡充
- 再生樹脂の導入検討
- 品質の確保とリサイクル性を兼ね備えた製品の開発

増収増益を計画 — 譲受事業の更なる収益性向上を推進

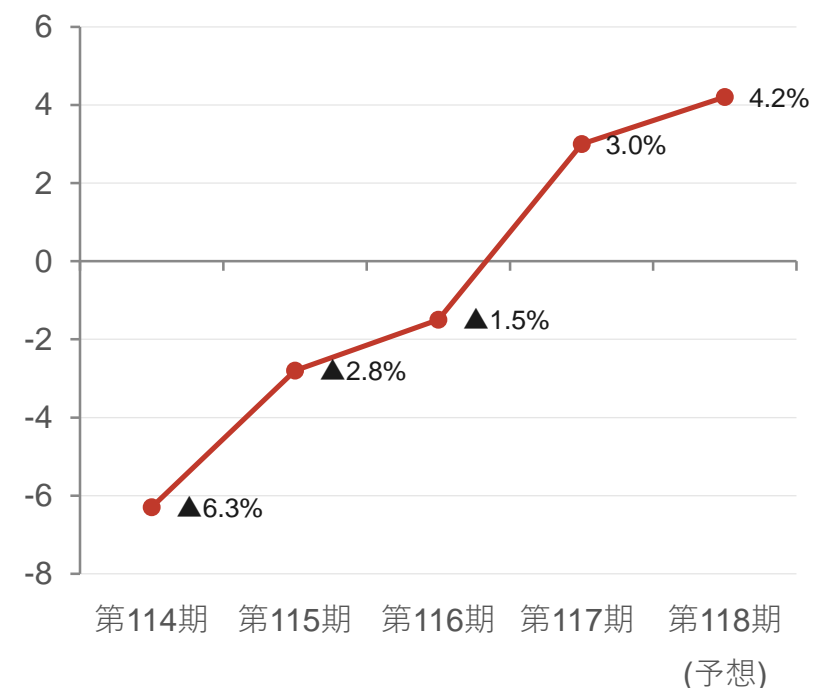
売上高（百万円）



営業利益（百万円）



営業利益率の推移



第118期 売上高 (予想)

7,600 百万円

(前期比+3.5%)

第118期 営業利益 (予想)

320 百万円

(前期比+44.8%)

第118期 営業利益率 (予想)

4.2%

(前期比 +1.2pt)

Vision お客様に技術力・提案力・対応力で選ばれ、働く私たちも誇りと働きがいを持って、価値を生み出し続けるチームを創る

1 収益基盤の健全化

不採算見直し・安定化

- 不採算銘柄の棚卸・評価を実施し収益ポートフォリオを最適化
- 譲受事業の継続的な収益改善
- 安価な原材料の検討

2 生産性改革

省人化・自動化・工程効率化

- 銘柄統廃合の推進
- 製造ロスの低減と稼働率向上
- 設備投資による生産体制整備
- 再生樹脂の活用検討

3 価値強化

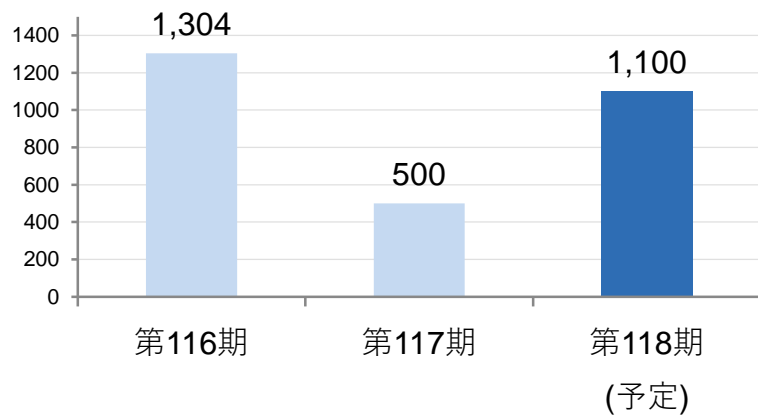
品質・納期・対応力 No.1

- 「捨てられない製品（部材）」の開発強化
- 譲受事業を足掛かりとした、高付加価値分野への進出
- PFASフリー製品など環境配慮型製品の開発を加速

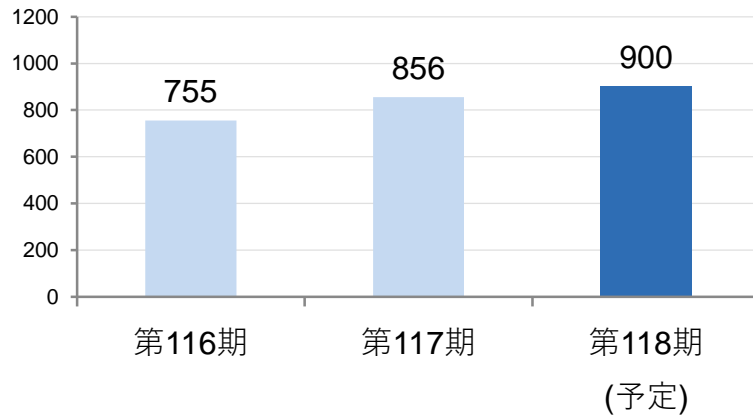
(単位：百万円)

科目	2025年3月期 (第116期)	2026年3月期 (第117期)	2027年3月期 (第118期) (予定)	備考
設備投資額	1,304	500	1,100	静岡工場レイアウト変更、職場環境整備、設備改造・更新
減価償却費	755	856	900	第116期の設備投資増加に伴い増加
研究開発費	436	403	400	従来水準を維持

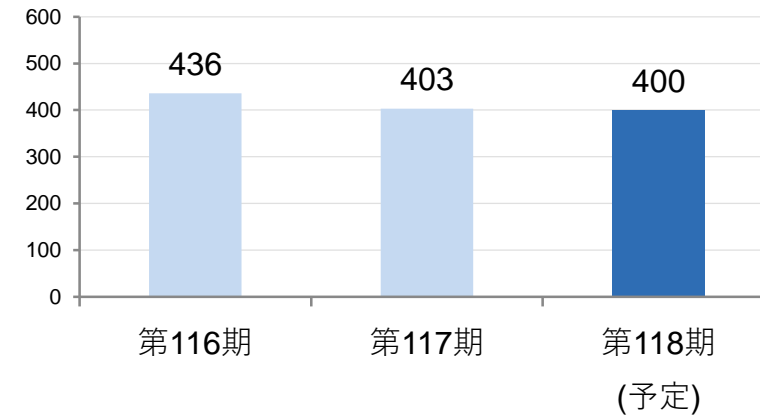
設備投資額 (百万円)



減価償却費 (百万円)



研究開発費 (百万円)



参考情報：トピックス(新商品紹介)

NEW

ECO ポロソ

リサイクル PET を使用した環境配慮型製品



リサイクル PET 使用

ECOポロソ、環境配慮型へ

どこからでも切れる使いやすさに、リサイクルPETという選択肢を。

環境対応 × 実績の強み

30年以上

の実績と信頼

リサイクル PET 対応

品質はそのまま
環境対応をプラス！

既存ユーザーへのスムーズな
切り替え提案が可能

技術・実績・営業訴求

穴開け加工の独自技術

東邦樹脂工業のコア技術。
リサイクル素材使用でも従来ポロソの品質を維持。

リサイクルマークを可視化

パッケージに特定のリサイクルマークを表示でき、環境配慮をそのまま訴求できる。

健康食品分野での高普及率

粉末青汁など健康食品の個包装スティック分野で30年以上の採用実績。安定顧客が多い。

高齢化社会×モバイル需要

健康・環境意識の高い高齢者が旅行・外出時に持ち歩く「モバイル形式」の需要に適合。

業績予想は、本資料の発表日現在（2026年6月9日）において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

お問合せ先

株式会社 **サンエー化研**
経営企画室

Tel:03-3241-5702 Fax:03-3241-5719

E-mail:keiki@sun-a-kaken.co.jp